

# 教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会  
学校教育部教育指導課  
平成24年6月27日発行  
VOL. 4

## 幼小連携の一層の充実に向けて

平成21年度から文部科学省では、平成20年3月に改訂された新幼稚園教育要領の理解を図るために「幼稚園教育理解推進事業」を行っております。事業では、次のような協議主題を設定し、全国協議会において、検証を図っています。

### 〔協議主題〕

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 幼児が協同して遊ぶようになるための環境の構成や教師のかかわりについて                |
| 2 | 健康な心と体を育て、幼児が進んで食べようとする気持ちをもつための環境の構成と教師のかかわりについて |
| 3 | 特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について           |
| 4 | 幼稚園における子育ての支援や教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について         |
| 5 | 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について                            |
| 6 | 幼稚園における学校評価について                                   |

市内の各園、各学校においては、幼小連携の取組が進められておりますが、小1プロブレム等を未然に防ぐ円滑なつながりを目指し、次の点を考慮しながら、今後の取組の一層の推進をお願いいたします。

- 年間を通じて計画的・継続的に取り組みましょう。
- 既に実施している取組をもとに、幼児と児童の交流、授業公開や合同での研修など、効果的な連携の取組を工夫しましょう。
- 保護者の理解・協力を得て、小学校就学への不安を解消する取組を行いましょう。

## コラム：武道（②）

より安全で効果的な武道の指導を行うために、近隣校や同競技実施校との情報交換等も有効です。（各校に協力いただき、指導体制や計画をお知らせいただきました。）

- （競技種と平均時数） < \_\_\_ は23年度実施校 >
- ◇柔道：西・凌雲・五稜・光成・的場・旭岡・亀尾・銭亀沢・赤川・桔梗・亀田・本通・北・日新・恵山・鍛法華・尾札部・臼尻
- ◇相撲：宇賀の浦・大川・港・深堀・湯川・戸倉・鱒川・桐花・潮光 ◇剣道：潮見
- ◇1年：約10時間(27校) 2年：約10時間(28校) 3年：約9時間(16校)

- ※ 単元内に「試合（形式）」が計画されている学校がほとんどですが、生徒の発達段階や体力的なレベル等によっては、怪我の未然防止のために、試合形式や高度な技の実施を見合わせる判断も必要です。また、生徒が武道嫌いになる要因の一つに「打突や投げなどによる痛み」があります。早期に技の指導に入らず、基本の繰り返しにより、生徒が武道の動きに慣れた状況の見取りをしながら授業を進めることが大切になります。
- ※ 安全面の話題が多く扱われる武道ですが、生徒が積極的に取り組める環境を整備し、技能だけでなく、伝統的な行動や考え方など、武道の指導の効果を最大限に引き出したいものです。

## コラム：学習評価（①）

本号から2回に分けて、学習評価について情報提供をさせていただきます。

### 1 学力の3つの要素との整理

学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を評価するため、「目標に準拠した評価」による観点別学習状況の評価や評定を着実に実施し、指導に生かすことが大切です。

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 基礎的・基本的な知識・技能             | → 「技能」及び「知識・理解」で評価します。 |
| 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 | → 「思考・判断・表現」で評価します。    |
| 主体的に学習に取り組む態度             | → 「関心・意欲・態度」で評価します。    |

### 2 「関心・意欲・態度」の評価のポイント

各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価します。

- 評価方法及び評価場面としては、授業中の発言や行動等、ワークシートやレポートの作成、発表などが考えられます。（授業中の挙手、発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意願います。）

### 3 評価規準の設定

単位時間の目標に基づいて、各時間の評価の観点を絞り込み、評価規準と評価方法を位置付けます。

- 評価規準は目標を実現した児童生徒の姿として「～している」、「～できる」など、具体的に設定します。

